

レンタカープローブデータを用いた観光交通特性調査

(一社) 沖縄しまたて協会 技術環境研究所 主任研究員 ①玉城 喜章
〃 研究員 ②上間 淳也
〃 研究員 ③諸見里 朋子

1. 目的

平成25年度は景気回復の基調や円安等の影響から国内旅行需要が拡大し、沖縄県の入域観光客数は658万人と過去最高を記録した。一方、これら観光客の主な移動手段ではレンタカーが57.3%と半数を超える、それに伴って沖縄本島内のレンタカー登録台数も過去最高の2万台を超えており、県内の道路交通円滑化を図るうえでも軽視できない規模となっている。

本調査では、平成23年4月から約21ヶ月（592組）のレンタカープローブデータ（レンタカーの移動軌跡）を収集し、これらレンタカー観光客の交通特性について分析調査を行ったものである。

2. 内容

これまでレンタカーの行動については様々な調査がなされているものの、調査期間が短い、サンプル数が少ないと、移動経路が曖昧などの課題があった。よって、本調査では長期に渡って詳細なデータ（5秒間隔の位置情報）を収集する事に重点を置き、県内レンタカー事業者の協力を得て10台のレンタカーに専用車載機を搭載した。また、対象者の属性（個人情報等）については一切収集しないなど比較的協力し易い環境づくりに配慮しながら調査を行った。

3. 結論

分析の結果、主な交通特性としてレンタカー観光客の月別走行距離は5月に伸びる傾向にあり、梅雨時期である事やマリンレジャーシーズン外である事が影響している可能性が考えられた。また、1組あたりの平均走行距離は287.7kmであり、1日の平均走行時間は約2時間50分であるなど、観光行程の約1/4（24%）をレンタカー移動に費やしている事などが明らかとなった。

更に、主要断面の交通量比ではレンタカーは規格の高い道路を使う割合が高く、宿泊件数の多い那覇市、恩納村、名護市間の移動と、それらを中心とする短中距離移動を頻繁に繰り返す傾向にあることなどが分かった。

また、主要な観光地としては那覇市、恩納村、名護市、本部町を訪れる割合が高く、平均滞在時間も宿泊を除いて3時間前後であった。一方、北中城村、宜野湾市、中城村、浦添市、西原町などは高速自動車道沿線である事も影響し、約9割のレンタカーが停車せず通過のみであるなど、今後の観光産業振興に向けた課題も確認された。

4. 今後の問題点

今後は高価な専用車載機では無く、低コストな計測機器等を考案するとともに調査車両台数を増やし、更なる詳細分析に向けて調査を行っていきたい。